

第2回 博多と福岡を結ぶ国体道路の空間利活用検討会

■日時 令和2年6月24日(水) 15:00~17:30	■委員 ・坂口委員長 ・原口委員 ・立花委員(WEB) ・石橋(浩)委員(代・WEB) ・石橋(隆)委員(代) ・竹ヶ原委員 ・内林委員	・辰巳委員 ・縄田委員 ・中川原委員(代) ・平山委員(代) ・南原委員 ・平間委員 ・野田委員(欠席)
---------------------------------	---	--

発言要旨

国体道路の空間再配分検討について

【委員発言】

- ・車道の混雑状況から現況の交通量をそのまま受け止めるのであれば、これ以上車道幅員を狭くする余地は少ない。
- ・国体道路の歩道部分には中洲地区に3~4本の樹木が残っており、地元としては数年前から撤去を求めている。中洲は酔客の方が多く、歩道が狭いと、植栽帯があつて危ない。また、植栽帯でも引っかけたて転ぶことがある。その点を十分に配慮して検討して頂きたい。
- ・矢羽根または自転車通行帯を検討する上で自動車目線でのシミュレーション(視認性、安全性など)が可能であれば、検討して頂きたい。
- ・矢羽根と自転車通行帯について、矢羽根(幅員1.0m)の場合、多くの方が歩道を走っているのか。自転車通行帯で幅員1.5mが確保できれば、車道上に多くの自転車を促すことが可能となる。ルールを遵守する場合と実態の違いを認識した上で検討を進めるべき。
- ・自転車の走行について、車道の端を自転車が走行するのではなく、歩道を広げて歩道部分で自転車を走行させる方が安心して通行できるのではないかと。
- ・バスカットについて、本来はバスがバスカットから出発する際には、道路交通法上、後続車はバスに車線を譲らなければならないが、実際はそれがなかなか難しく、出発出来ずにバスの遅延が生じていることから、バス事業者もバスカットは望むべき方向ではないということ優先度が低いものとなっていると考えられる。
- ・優先検討区間(祇園町西交差点~渡辺通4丁目交差点)における歩行空間の短期対策案については、事務局から示された4パターン(案①:矢羽根+植栽帯撤去、案②:矢羽根+植栽帯設置、案③:自転車通行帯+植栽帯撤去、案④:自転車通行帯+植栽帯設置)にて検討を進めることでよい。また、沿線の町並みとの調和、デザイン舗装など景観への配慮も必要。
- ・検討区間(祇園町交差点~赤坂3丁目交差点)における国体道路の空間再編である長期対策案については、自動車交通の広域的な配分による周辺道路への影響が大きいことなどから、関連する関係機関や事業者等を入れて別途検討することで良い。

春吉橋賑わい空間のあり方について

【委員発言】

- ・民間サウンディング案について、幅広い調査内容となっているため、事業者が利用の方向性を回答しやすいような質問項目の設定や、賑わい空間の一部利用を想定した提案でも良いのかなどの事業者が気になるポイントについて整理が必要。
- ・調査内容について、収益に関する項目についてもサウンディング対象とした方が良い。また、事業者の提案内容が、実施可能性を含めてどのくらいの費用を想定しているのかも聞いた方がよい。
- ・天神ビッグバンが進んでいる天神エリアとの差別化も図る必要がある。
- ・まちづくり団体等からトイレの必要性について意見が出ており、トイレの位置付けについても検討する必要がある。
- ・夜間における飲食の実施については屋台との共存共栄が心配される声があり、周辺の店舗に影響を及ぼす可能性があることから、夜のイベントについては慎重に議論したほうが良い。
- ・アフターコロナを踏まえ、賑わいに対して人々の意識と行動、価値観などが変わってくると考えられるため、賑わい空間をどういう空間としてつくるかは、一つの意味が必要。試行イベント時とアフターコロナでは考え方が変わっている可能性があることを踏まえて、中長期的な中洲エリアの観点から、この場所で期待される賑わい空間としての機能について改めて周辺店舗に確認してはどうか。
- ・ソウルフルは九州最大の繁華街、夜の町中洲の土手っ腹にあるという人間くささや界隈性といった空気感、雰囲気がこのエリアの夜の顔を作り、そしてそこへの入口ということで、非常に重要なキーワードとなってくる。
- ・ソウルフルや賑わい空間のイメージ（マグネット、フォトジェニックなど）についても、横文字を使用するよりも、注釈部分の表現などの方が分かりやすい。
- ・長期的な国体道路の利活用について、赤坂のけやき通りのように愛称を持ってそのエリアが語られるようなことが非常に重要である。国体道路と言う名称はあるが、今後、イメージ形成やブランド化をしていくことが必要。
- ・民間サウンディングについて、賑わい空間を道路とするのか、公園とするのかで事業者の捉え方が異なる。賑わい空間のあり方検討において、民間サウンディング調査が重要となる。前提条件や調査内容、実施方法等について関係機関でしっかりと整理した上で実施して欲しい。

以上